

# 日本共産党埼玉県議団ほっとNEWS

2012 NO. 3

2012年5月18日 日本共産党埼玉県議団

## 「患者家族の声を計画に活かしてほしい」 県立小児医療センター—患者家族会と県の懇談

5月12日県立小児医療センター内で患者家族会代表が、埼玉県病院局経営管理課長とセンター事務局長らと懇談しました。柳下・村岡両県議が同席しました。

はじめに挨拶にたった柳下県議は、このような場もてて本当にありがたいと話し、これまで県に提出されてきた5万5千を超える署名が生かされるように、意見交換してほしいと述べました。



### お母さんたちの思い切々と

Aさんは「うちの子どもはカルテがない、経管栄養だとして、いつでも地域の病院に診療を断られ続けてきた。一部機能の存続と言うが、救急まで対応してくれるのか？ 定期の外来窓口だけ残ったのでは、うちの子はだめ。」と語りました。

また Bさんは「新都心は周産期、この土地では小児科をもっと充実して特化してほしい。

私たちが求めているものと、ベクトルが違う。周産期と小児科。比重が違うのでは。赤ちゃんはいつまでも

赤ちゃんではない。いずれ子どもになる。」Dさん「脳性麻痺の子ども 筋力の緊張が強い 夜眠れず、ずっと抱いている。いつ寝たのかわからない日々。在宅の重症患者にとって、病院が近いことが安心につながる。家で緊張が始まってもすぐに病院に行くことができる。新都心の場合一緒に行く人がなければ、途中で何があるかわからないのでいくことができない。」

### 1次2次とアンケートをとる

県病院局は「すでに患者の意向を調査するアンケートを全員対象に、病院で配っている。1ヶ月の期間アンケートを行い、その後希望者を対象に詳しい2次アンケートをとる。病院が独自に持っている情報から、移転後通うのは困難とみられる患者には病院側から声をかけて調査する。こうした声を元にどのような機能が必要か検討する。」と説明しました。

最後に牧田代表より「センターのほとんど全部の機能を存続してほしい」藤田代表より「患者家族を計画の検討の場に呼んで意見を聞いてほしい」と要望しました。

#### 患者家族への移転説明会

6月9日（土）午後1時半よりセンターで

#### 蓮田市地元への移転説明会

6月10日（日）午前10時より岩槻特支にて

#### 議会説明

5月24日 宮代、伊奈 30日 蓮田

6月6日 上尾